

かたらい

特別企画

「伝統に生きる！」

江戸糸あやつり人形「結城座」

「結城千恵さんのお話」

P2～



男性から見た
男女共同参画 P10～

第27回
こがねいパレット
実行委員に聞く



「国際比較」 P8～

ベルギーのくらし、
日本のくらし
サム・ドウ・ベルデルさん



小金井学ぶ P6～

東京学芸大学
男女共同参画
支援室の取組

『伝統に生きる』

江戸糸あやつり人形「結城座」

〈結城千恵さんのお話〉



網館より（左：十二代目結城孫三郎さん、右：結城千恵さん）

創立380年、小金井市に本拠地をおく、

江戸糸あやつり人形「結城座」～結城千恵さんを訪ねました。

〈江戸糸あやつり人形と結城座の歴史を伺いたいのですが〉

糸あやつり人形は日本全国にあったようですが、始まりは書物に残っていません。人形には、手あやつり・糸あやつり・からくりの3種があります。手あやつりは動き過ぎるので、ころあいで止めるのが難しいのですが、糸あやつりは動かすこと自体が難しい。地方で糸あやつりが消滅した経緯も明らかではありませんが、糸は操りが難しいので、手あやつりが残ったと考えられます。

初代結城孫三郎は、江戸中期に徳川幕府公認の座として旗揚げをされました。五七桐（太閤桐）紋※を許されています。日本橋から浅草、両国へと居を移し、戦争中は盛岡や名古屋へ疎開しました。代々江戸っ子で地方に親戚は無いのですが、呼んでくれる人がいて疎開し、戦前からの人形を守ることができました。金目の物より人形を持つての疎開でした。

戦後、武蔵野市吉祥寺に移り住みましたが、天井の高い稽古場が必要で18年前に小金井に引っ越しました。

※〈注釈〉五七桐（太閤桐）紋Ⅱ
桐紋は、葉や花を圖案化した家紋の総称で、花序につく花の数が5―7―5となっているものは五七桐という。ほかに、「乱れ桐」・「桐菱」・「光琳桐」・「桐車」など140種以上の圖案がある。足利幕府では小判などの貨幣に刻印され、これ以来皇室や足利幕府や豊臣政府など様々な政府が用いており、現在では日本国政府の紋章として用いられている。

〈国内はもとより海外へも公演に行かれていますね〉



釣女より

海外公演では、現地スタッフと充分にディスカッションをします。古典の面白み・けれん※・悲しみだけでなく、演劇として観てもらいたいのです。海外の人には伝わらないと言われる事もあります。半年も話し合い、誠意が伝わった時に「座組」ができたと感じます。

1986年に、ベオグラード国際演劇祭でマクベスの上演をし「特別賞／自治体賞」を受賞しました。観客の投票でいただいた賞です。現地の評価は高く、的を得た新聞記事を目にし、我々の思いが伝わったと嬉しかったものです。日本人の知恵の塊である、糸あやつり人形の表現の深さを伝えたかったのです。一般市民には高い入場料にも

関わらず観に来てくれる人々は、好奇心旺盛で、感性が一致すると惜しみなく評価してくれます。上演前には冒けいれんをおこす事もありましたが、また帰ってくる約束をして帰国しました。

結城座ファンがベオグラードにいます。2004年に20年ぶりに古典釣女（つりおんな）をもつていき、満席でした。海外の人々の感性を学びました。

※〈注釈〉けれんⅡ客受けをねらって、わざと笑わせたりして語ること。早変わりや曲芸のような動作など、客があつとおどろくような、派手な演出をすること。

〈千恵さんの初舞台は5歳です〉

5歳で初舞台を踏みましたが、祝の舞台はしていません。親は人形遣いにするつもりはなかったのです。結城座はNHKの放送開始から関わっており、私は子どもでしたがNHKに人形を運ぶ手伝いをし、古典的な男の世界で可愛がってもらいました。

父は役者、母は演劇という家で育ち、中学を出たら演劇の世界に入りたかったのですが、3年我慢するように言わ

れました。18歳で本格的に人形遣いになろうと思いましたが、「この世界で一人前にはなれない」と、父は反対しました。歌舞伎のように男だけということは無いが、肉体的に女は無理だと言うのです。人形は男がつかいやすいように作られているので、女には限界があると。母も体が弱い私を心配し、一本気な性格の娘は結婚もしないだろうと思いやったのです。

フランスの演劇学校に入れという話を断り、家を出て近くに住み結城座に通いましたが、父は口をきいてくれない、役をつけてくれない日々でした。父は私に「千恵は、どうしてそんなに下手に人形を使えるの？」と言いました。口が悪く手も早い父に、燃えるタイプの娘は開き直りで通い続けました。当時、女弟子もいましたが、「女は一人前にはなれない」との思いが強かったのです。男社会ですし、その中に入って大変でした。



〈父の教え 母の教え〉

今の若い人は、怖いもの知らずの人は少ないですね。頭が良く、生活のことも考えている。この人のほうがうまい、とベクトルを持っている。

昔は私も父のようになりたかったのですが、今は自分のベストをつくすだけ、誰それのようにになりたい、はありません。

父は、亡くなる時に「嫁にいかないでありがとう。継いでくれて有難う」と言いました。母も「嫁にいかないでくれて有難う」と、亡くなる前に言いました。二人とも「誰が辞めようが千恵は辞めないね」と言っていました。

我が家に父親は不在でした。80歳で父が倒れて、初めて父親を持ったと思いました。10年間介護をしながら芝居の話聞き、父の想いを知ったのです。父との時間を持って良かった。その後、母を10年介護しました。

私は、兄が三人いる末っ子の一人娘です。今は、次男である十二代目結城孫三郎とともに座を支えています。十一代目の長男は20年前にリタイアしましたが、今度一緒に舞台を踏む予定です、楽しく稽古しております。

母は、私が中学生のころから「人の上に立つなら、人がどんな思いをして

いるか経験しなさい」と言いました。向かない、というのがと努力が足りないことの違いを見分けるのは難しいことです。私も何度も辞めようと思いましたが、父に、人形遣いを辞めて衣装・制作になろうかと相談した時、「千恵は人形が嫌いなのか？」と聞きました。「いえ下手だから…」と答えると「…じゃあ、おやり」と言いました。母は、「芸人って化けるのよね」と言いました。

人は縁が大切です。座に入ってくる時は皆良い事を言いますが、私は、「辞める時はきれいに辞めていけ、きれいに辞めて行かない人は何をやっても成功しない。辞めた次の日に遊びに来られるように。」と語っています。

〈上演には多くの人が関わっているのですね〉

江戸時代に平賀源内は、福内鬼外というペンネームで結城座の脚本を書いていたのですが、結城座は座付作家を持ちません。人形遣い、人形制作者など座のメンバーで創り上げます。演出家は座長が行いますが、演出家をお願いする場合は、作品で選ぶ時と人で選ぶ時があります。

落語「芝浜」を上演する時は、日本舞踊西川流家元の右近氏に脚本と演出

を依頼しました。山元清多さんや斎藤憐さん※が亡くなり、つらい思いです。

人形の頭は、面六（屋号）さんに頼んでいましたが、今は座で作っています。武蔵野美術大学が大学になる前は、彫刻の教師や学生が頭を作っていました。顔は、型をとり和紙で作ります。古典は、日本髪をつけるので人形が重くなります。日本髪は、髪が操りひもに引つかからないよう工夫して作る、これを「人形の嘘」といいます。

女・男・子どもそれぞれの役になりきると楽しいのですが、だから舞台が上手くいったともいえない。同じ人形でも演者により違ってくる。人形は年をとりますが、人形と演者は似てきますね。

人形遣いの原型は男です。「女形」は男が演じるから成立する、歌舞伎と同じですね。私には消耗する世界ですが、女が女を演じる新しい形をつくりたい。今度、孫三郎が女房役で、私が夫の政五郎を演じます。どういう人間性を表現するか、どんな声で演じるのか、楽しみです。

遣い手は人形を俯瞰※して見る位置にいます。懐の深さが要求されますが、それは観客にも必要なものです。



※〈注釈〉 斎藤憐は上海バンドスキングなどの作品で知られる劇作家で2011年逝去。

※俯瞰（ふかん）は高い所から見る下ろすこと。全体を上から見ること。

〈これからの夢は何ですか？〉

公演は命を削る作業です。人形遣いは体力を使いますが、完成度の高いものを一作一上演していく。芝居の中でどう存在しているか、自分でも気付いていない自分を見出すこともあります。お会いできた人の関わりで見えてくる自分がある。少しでも糸で繋がること、絆を大事にしたい。人形遣いに年は関係ありませんが、体力と追いかけてこടുすね。体は損なっていくが、年を重ねた得もある。それを面白くして、どこまでやれるか。人形作りも続



写し絵と糸あやつり人形

けていきます。
次の公演まで私は生きていくかしたら、結城座を待っていてくれる人々が大勢います。海外にも国内にも通いたい。今年は新作の年、来年は古典の年

と、続けていきます。糸操りは日本唯一のもので。日本人の構築した深い世界、微妙な感性をもつ「江戸糸あやつり人形―結城座」を広く知って戴きたいのです。

2011年の東日本大震災後、被災地に何度も行っていきます。死ぬことを笑いに替える作品が多い中、被災地でどう演じるか、死を避けずに作品を探しました。恩返しできることは演じることだけです。

あなた頑張ろうではなく、一緒に生きていきたい。

昭和初期からある「写し絵」にも取り組んでいます。目と感性の全てを遣う舞台で、集中力を要します。集中できない時は、周りに「今日は機嫌悪いよ」と言っておくんですよ。

380年を超えた結城座で、あと20年かかって、男に変わるのではなく、女が演じる形を完成させていきます。



取材を終えて

珠玉の言葉が次々と語られ、人形を愛し守ってきた、凛とした千恵さんの美しい眼差し。若い時に大恋愛もし、大いに遊んだとサバサバ語るお顔に、益々魅力を感じました。(加)

公益財団法人江戸糸あやつり人形 結城座

(国記録選択無形民俗文化財 / 東京都無形文化財)

〒184-0015 東京都小金井市貫井北町3-18-2

TEL 042-322-9750

FAX 042-322-3976

ホームページ <http://www.youkiza.jp/>

※公演情報等については、ホームページからご覧いただくか、直接お問い合わせください。

小金井

で
学ぶ

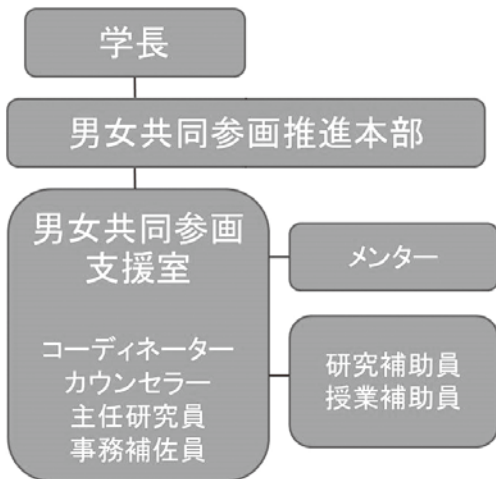


東京学芸大学

男女共同参画支援室の取組

男女共同参画支援室とは

男女共同参画の取組は、平成18年の男女共同参画推進本部の発足に始まり、平成23年に科学技術振興機構（JST）の「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、11月にプロジェクト推進のための男女共同参画支援室が発足しました。「学芸の森が育てる女性の力」と銘打たれたこのプロジェクトでは（1）ライブイベントと研究活動を両立させるための支援、（2）男女共同参画に向けての意識啓発活動、（3）女性研究者の増大および裾野拡大に向けての支援の三つの柱を活動の



主軸におき、女性研究者の支援を中心に男女が共に輝ける大学づくりに取り組んでいます。支援室にはコーディネーター、主任研究員、カウンセラー、事

今回は、東京学芸大学の男女共同参画支援室に伺いました。以前、同学学芸の森保育園取材しましたが、男女共同参画の取組の全体を伺いたいと思ったからです。取材に応じてくださったのは、コーディネーターの後藤せいこさん、主任研究員の成定洋子さん、カウンセラーの永田有希子さんの3人です。

務補助員が配置され、日々の業務にあたっていきます。

支援室の取組

ライブイベントと研究活動の両立支援では、介護や出産・育児中の教員の研究サポートを行う研究補助員の配置制度や夜間の授業を免除する制度、病後児保育やベビーシッター利用時の補助制度等が整備されました。カウンセラーによる相談窓口も常設され、メンター制度も実施されています。ランチタイムを利用した女性教員交流会や子育て交流会を定期的に開催し、情報交

換とネットワーキングの促進を図ることで、様々な問題の解決を目指しています。

男女共同参画への意識啓発に関しては、フォーラムの開催や白書の刊行、ニュースレター・ホームページでの広報等を通じて、支援室の取組を積極的に紹介しています。男女共同参画に関する教職員の意識調査や学生の理数系科目への意識調査を行い、現状把握とニーズに応じた支援の在り方を模索し続けています。

裾野拡大に関しては、学生支援を中心に取組を充実させています。夏休みに行われた大学説明会では理数専攻の女子学生と交流するブースの設置や理系ミニ講座を実施し、女子高校生の理系への進路選択を応援しました。昨年秋には「学生サポーター制度」もスタート。教員を志望する学生が多い学芸大学ですが、学内における男女共同参画の実現を共に目指すとともに、ダイバーシティ（多様性）を大切にする気持ちを持って教育現場や社会に出てほしい、というのが支援室の願いです。

支援室はこんなところ

コーディネーターの後藤さんは元NGOスタッフで、女性支援や障がい者

支援に携わってきました。支援室ではプロジェクト全体の調整、予算の管理、報告書づくりなどを担当しています。

主任研究員の成定さんはジェンダー論の研究をしている中で男女共同参画

後藤せいこさん
(コーディネーター)



成定洋子さん
(主任研究員)



永田有希子さん
(カウンセラー)



に関心を持ち現職へ。学内の男女共同参画に関する調査や白書の編集、ジェンダー関連授業の担当等を主に担っています。

カウンセラーの永田さんは企業で働く人を対象としたカウンセリング業務に従事してき

た経験を活かし、相談サービスやメンター制度運用に尽力されています。

支援室には日々様々な相談や要望が寄せられます。教職員からはライフイベントや研究費獲得に関する相談、学生からは進路やキャリア、ジェンダー

やセクシュアリティに関する学びについての相談が多いそうです。最近では非常勤の教職員からの相談が増えており、非常勤の方には情報そのものが行き渡りにくい現状を感じるのとことでした。他の大学では非常勤へのサポートそのものがないところもあるそうです。

メンター制度は学生にも活用されており、先輩の研究のやり方やライフイベントなどを聞いて非常に参考になった、話を聞いてもらえる場所が出来てよかった、という感想があるようです。

3年間の成果は？

この3年間の成果として、まず女性の大学教員の在職比率が上昇して、22・3%になったことが挙げられます。目標は25%でしたが、かなり近づいていると思われまます(表-1)。また、科研費の採択件数のうち女性研究者の占める割合は25件から35件へと3年間で16・7%上昇しました。更に、在宅勤務のための環境整備や育児支援の拡充も進められています。こうした改善には支援室だけではなく学内の様々な部署の協力も必要で、今後より良い連携体制を作っていくことが求められています。

表-1 女性在職者と在職比率

	在職者数 助教以下 (人)	在職者数 講師・ 准教授以上 (人)	女性(大学) 教員の 在職比率 (%)
H22.5	0人	69人	20.0
H25.5	1人	71人	22.3

支援室の今後

平成26年3月にはJST助成金は終了してしまうので、これから大学として男女共同参画の推進体制を継続して行く事が最大の課題です。大学全体でダイバーシティを推し進め、多様な人々が輝ける大学の実現に向けて取組を継続していくことが求められています。

今後、学内の男女共同参画を推し進めていくためには、大学全体としてこの取組の意義を理解することが重要、ということ。学内リソースの活用と連携を活発化させ、今後の支援室の動きを着実にしていくことが望まれるで

しよう。



取材を終えて

支援室の方々は、皆意欲にあふれた方々でした。まずは教員や職員、学生達と、男女共同参画を進めていくのは大変だと思っています。

かつては、教員が育児休業中に研究を継続できるシステムが無かったとの事です。学長の方針でシステムそのものを变更后、いった組織のあり方に、大変心強く思いました。今後も続けて男女共同参画を推進して行って欲しいと思います。(佐)



めました。活動を中断して帰国した理由を樹里さんに聞くと「私は、中学卒業後オランダのハーグ王立バレエ学校に留学し、その後も日本とオランダを行き来するなど自由勝手に生きること

もともとサムさんは、日本に大変興味がありました。それは、サムさんが幼い頃から両親が日本文化や日本食を生活に取り入れていたからです。80年代ベル

と樹里さんが語るエピソードをうれしそうにサムさんは聞いていました。料理のことをサムさんに聞くと、「日本の好きな食べ物はおにぎりです。とにかく

左：サムさん、右：樹里さん



食べると思っただようですね。びっくりでした。正しい使い方を教えてあげました(笑)

国際比較

サム・ドウ・ベルデルさんに聞く

ベルギーのくらし、日本のくらし

市内にお住いのサムさんご一家は、ベルギー出身のサムさんと小金井市出身の樹里さん(妻)、太陽君(4歳の3人家族です。日常会話はサムさんと樹里さんは英語、サムさんと太陽君はフラマン語(ベルギーの公用語の一つでオランダ語に近い言語)、樹里さんと太陽君は日本語で話されるそうで、何ともインターナショナルなご一家です。日本の印象や日本とベルギーの違い、お二人の出会いなどについてお話を聞きました。

サムさんと樹里さんの出会いはオランダで、ダンスが縁結びです。樹里さんのお母様の介護を機に日本で生活を始めました。

1977年ベルギーのフランダーズ地方、オランダに近いモルという街で生まれたサムさんは、20歳でオランダに移り演技の勉強をされました。22歳の時にオランダのロッテルダムダンスアカデミーで4年間ダンスを学び、その後オランダのダンスカンパニーに所属してイタリア、

ドイツなどヨーロッパ各地を回り、コンテンプラリーダンスを踊っていました。

樹里さんとの出会いは、オランダのロッテルダムダンスアカデミーです。その頃振り付けの勉強をしていたサムさんは、樹里さんのダンスパフォーマンスに惹かれ、やがて彼女に振り付けをしたいと思っただけです。

その後、お付き合いが始まりオランダで一緒に生活をしていましたが、6年前樹里さんのお母様が病気になる、樹里さんは介護のため日本に帰国することを決

を許してもらっていました。姉と父はいますが、彼女たちに母の介護を任せづりにしたくはありませんでした」と説明されました。

サムさんは、「樹里の帰国当時は、仕事がつまっていたので、夏休みにやっと日本に来ることができました。日本語の学校に通い日本語を勉強しました」とのこと。その後、しばらくは遠距離恋愛を続け、2007年から日本で一緒に住むことになったそうです。

結婚の決め手は「樹里は、親孝行で家族を助けたくて日本にいたいんだね。樹里が家族をサポートするのなら、僕は樹里をサポートするよ」とサムさんから樹里さんへの素敵なプロポーズでした。

サムさんのベルギーのご実家は親日家で、日本が大好きです。

お米が大好きです。樹里の手料理で好きなのは、きんぴらごぼう、お味噌汁です。ベルギーの料理では、チコリのグラタン、じゃがいものスープを好んで食べました。ベルギーのお酒はビールが有名ですが、私はビールを飲みません。一番好きなのは日本の梅酒です。オランダにいた時に樹里の実家から送られてきた梅酒を勝手に飲んでよく怒られました(笑)」とのことでした。

日本は明るくきれいな印象で、びっくりしたのはコンビニや電車です。

サムさんが日本に来てその清潔さにびっくりしたと語ります。

「日本は清潔な街だと思いました。街中がデイズニールランドみたいですよ。ベルギーの建物は歴史があり重厚、石造りや茶色の煉瓦で暗い印象です。ベルギーの家の庭は、草がボウボウと生えていることも多いです。日本の家や建物は明るく、庭が綺麗ですね。小金井もきれいな町並みで、初めて家から小金井公園まで歩いて行った時は感激しました。日本の好きな場所は、京都です。日本の庭園が好きで枯山水に惹かれます。海より山が好きです。箱根も素敵ですね」

一方、日本の都会の便利さも満喫しています。サムさんは、特にコンビニエンスストアがお気に入りだそうです。

「ベルギーのお店は夜6時には閉店し、

日曜日はお休みです。24時間営業なんて信じられません(笑)」サムさんが驚いたのは満員電車で、「初めて日本の電車に乗る時に、ホームで電車を待っていたら、来た電車はとても混んでいました。それなら次の電車に乗ろうと思って乗り過



りませんでした(笑)」

ベルギーでは、家庭の中で男だから、女だからという役割分担をあまり感じません。

ベルギーでの仕事の仕方や男女の役割についてもお聞きしました。

「仕事は夕方5時までです。残業はせず家族との時間を大切にします。同僚と飲みに行くことはほとんどありません。また、男女の役割についても、男性が仕事、女性が家事育児全般をするという考え方はあまりなく、共働きの場合は手が空いている方が家事をするという考え方が多いと思います。実家でも父がよく料理をしています。現在は二人で何でもしています。ベルギーでは男女での役割分担はなく、家庭ごとの考え方で自由にして

いると思います」

サムさんの今後の夢、それはコンテンプラリーダンスを広めていくことです。

サムさんが日本に来たばかりの頃は、ベルギーに帰りたいと思う気持ちもあつたようです。日本では、最初ダンサーの仕事はあまりなく、再現ドラマのエキストラやバーテンダー、英会話の先生など幅広くしていました。しかし、その実力で、テレビなどで活躍する有名歌手の安室奈美恵さんのバックダンサーを務めたこともあるそうです。

「日本に来たばかりの頃でしたので、安室奈美恵さんのことを知らずにオーディションを受けました。PV(プロモーションビデオ)のセットが素晴らしくて、後で有名なアーティストと知ってびっくりしました」

現在は、仕事をダンス一本にして頑張っているとのこと。最初日本に来たときに5年間は我慢して頑張ろうと思っていました。最初の3年は大変でしたが、日本が大好きになり、頑張ろうと思う期限は、どんどん伸びています。(笑) また今から5年頑張りたいと思っています」

最後に今後の夢についてサムさんに伺いました。

「スクールで振り付けからダンスまで幅

広く教えて、日本でダンスを広めていきたいです。最終的にはコンテンプラリーダンスをぜひ広めていきたいと思っています」



コンテンプラリーダンスを踊るサムさん

取材を終えて

インタビュ어의最後にサムさんはコンテンプラリーダンスを素敵に披露してくれました。滑らかな動きですごくカッコよかったです。今まであまりご縁がなかったベルギーですが、ベルギーのお話をお聞きして、とても身近に感じる事ができました。お二人はとにかくカッコイイです。最初部屋に入って来られた時、さっそうとした雰囲気です。お二人のダンスを通じての結びつきも、とても素敵ですね。お二人のコンテンプラリーダンス、舞台でぜひ拝見したいです。(高)

「男性から見た 男女共同参画」

「こがねいパレット」実行委員に聞く

第27回 こがねいパレット

いろんな人が、その色のまま、幸せをつかめる「男女共同参画社会」を根付かせる事を目指す「こがねいパレット」が今年度で27回目を迎え、平成25年11月10日(日)に公民館本館で開催されました。

今回のテーマは、「ビューティフルママの時間割」子育てと仕事をおいしくMixです。NHKなどTVや映画などで活躍されている、新進気鋭のアニメーション作家の若見ありささんを講師に招いて、講演会とワークショップの2部構成で進められました。

講演会では、「こどもはみんなアーティスト!」育児をしながら夢をつくる「映像作家の奮闘」と題し、講師の若見さんは自らの体験に基づき、アニメーション映像を駆使しながら、わかりやすく語りかけていました。参加者のほとんどが幼児を伴ったの来場で、

子育てをする上で
の貴重な
ノウハウ

を熱心に
聞き入っ
ていまし
た。

第2部

のワーク



第27回こがねいパレット
講師 若見ありささん

ワークショップでは、ハンドタオルを使い、ペンギン、うさぎ、くま、ぞうなどの動物を「手品師」のような手さばきで、次々に「創作」すると、参加者も幼児と共に奮闘する姿が見受けられ、微笑ましくかつ印象的でした。

「こがねいパレット」の企画、運営は公募に申し込んだ市民実行委員が、一年に渡りテーマや構成に携わっています。今回は8名の委員が取組、そのうち、3名は男性が参加しました。男性委員に、参加に至った経緯や抱負などをお聞きしました。

木原さんと田嶋さんは、ともに70代で実行委員に参加して2年目、中村さん(20代)は、今回初参加です。

「こがねいパレット」参加の動機は?

・市報こがねいで「パレット実行委員募集」の記事を見たり、知人に誘われたことがきっかけです。(3氏)

・こがねいパレットを担当している企画政策課男女共同参画室を訪れ、「こがねいパレット」の意義を聞き、賛同し参加に至りました。(木原さん、中村さん)

・男女共同参画は、男女が同じレベルで考えるものであり、「こがねいパレット」はその絶好の機会でもあると思いました。(木原さん)

「男女共同参画」についてのイメージは?

・当初、古いイメージを持っていましたが、こがねいパレット実行委員に参加して、男女は常に相互扶助の関係にあり、その大切さを学びました。かつ女性の感性や柔軟な心は貴重だという認識に至りました。(田嶋さん)

・私も同様です。男女の身体的条件は違っても、助け合う気持ちは大切ですね。(木原さん)

・私はやや若い世代ですので、それほど男女の条件の違いは感じませんが、互いに補う事は大切だと思います。(中村さん)

今回のテーマ「ビューティフルママの時間割」子育てと仕事をおいしくMixを取り上げた経緯は?

・幼児を抱える親御さんが、心身共にエンジョイしながら、子育て出来る環境を学び、社会形成に役立てればと、このテーマに挑みました。(田嶋さん)

・個人が考え悩む事を、みんなで考えよう。ま

第27回こがねいパレットの男性実行委員(左より:中村さん、田嶋さん、木原さん)▶



た、それぞれ潜在する考え方を、互いに持ちより具体的に表現できたらと思いました。今後も、男女ともに助け合いながら子育てをする父親、母親が多くなってほしいですね。(中村さん)

こがねいパレットに参加して

今回のこがねいパレット実行委員会では、テーマを絞っていく過程で、「最後の生き方、女性の護身術など」多岐に渡り検討されたそうです。その中で今回は、仕事・家事・介護など、様々な課題を抱える子育て世代に向けて、どのようなしたら、毎日の生活や子育てを楽しく、「おいしく」効率的に過ごせるかの工夫を取り上げたいとの思いで立案されたとの事でした。講師の若見さんは、「1日の時間割」を自然な語り口で解き明かし、参加者の方々はそのオーラに引き寄せられていました。

また、今回インタビューした3名の男性陣の実行委員が、男女共同参画の大切さを自然に語り、ビューティフルママへのメッセージとして、温かな「応援歌」を送っている姿が印象的でした。(吉)

国内研修事業参加費補助制度のお知らせ

市では、男女共同参画社会の形成の促進に係る研修等に参加する市民の方々に、参加費補助（旅費及び参加費の諸経費の2分の1）を行っています。

詳細については、市ホームページにも掲載しています。申込み方法等、ご不明な点がございましたら男女共同参画室（☎042-387-9853）までお問い合わせください。

【補助対象】

東京都及び東京都に隣接する地域で行われる男女共同参画に係る研修、講演、シンポジウム、分科会等（宗教及び政治活動並びに営利等を目的とするものを除く）

【応募資格】 次の条件をいずれも満たす方

- (1) 当該研修等に参加する日現在で、本市に2年以上居住し、18歳以上の方
- (2) 男女平等及び男女共同参画に関心を持ち、地域活動及び市行事に積極的に参加できる方

補助制度のご利用者の声をご紹介します。

平成25年度東京ウイメンズプラザフォーラムで開催された「女性のキャリア形成とメンタリング」（実施団体：一般社団法人ウイメンズメンターバンク）と「大人のための・・・絵本でこころのマッサージ」（実施団体：東京メンタルヘルス・スクエア）に参加しました。

男女共同参画の講座というと敷居が高い感じでしたが、半分補助が出るとお聞きして行ってみました。お話は大変興味深く、今後の自分の生き方を考えていく上でとても参考になりました。

また今あえて絵本を読んでもらうと、人生いろいろあった大人だからこそ感じる事、新しい気づきがたくさんありました。よい経験になりました。

(Aさん、女性)

平成25年度東京ウイメンズプラザフォーラム「ここから始まる輝く未来」が開催され、多彩なプログラムの中から、「映画〈森の中の淑女たち〉を観て考える私の生き方」（実施：東京ウイメンズプラザ図書資料室）に参加しました。

カナダの森の中、バスの故障で高齢女性たちが朽ち果てたコテージで其々の個性と智慧と経験をいかし助けを待ちながら心を通わせていく映画を観た後、参加者で7人のグループを作り感想を出し合い発表する、というもの。印象に残ったシーンなど個々異なる感想もあり、話し合うことで映画が深まりました。

(Bさん、女性)

男女平等に関する

「苦情」・「相談」の窓口を設置しています。

申し出の費用は無料です。
秘密は守られます。

市が実施している施策に男女差別が見られる場合の苦情や、市民生活を営む上で差別的な扱いを受けた場合の人権侵害による相談について申し出ができます。

相談内容に応じて、必要がある場合は、市は当該機関等の調査をしたり、説明を求め、助言・指導、是正の要請を行います。

また、苦情を公平に適切かつ迅速に処理するため、専門知識のある男女平等苦情処理委員が苦情処理を行うこともできます。

詳細については、市ホームページにも掲載しています。申し出方法等、ご不明な点がございましたら男女共同参画室（☎042-387-9853）までお問い合わせください。

夫婦・恋人との関係は対等ですか？

ドメスティックバイオレンス（DV）とは、夫婦や恋人など親密な関係にある人（あった人）への暴力のことです。DVは、殴る、けるなど身体への暴力に限らず、言葉や態度によるさまざまな形で現れます。親しい関係の間で起こるため、実際はDVを受けているのに認識できず問題が潜在化することもあります。

DVの特徴として、繰り返されることがあるとも言われており、暴力をふるった後、加害者は反省の態度をみせたり、優しくなったりしますが、次第にイライラし、また暴力が繰り返され、エスカレートする場合があります。また、DVは、子どもにも暴力が及ぶケース

もありますが、子どもに直接暴力が及んでいなくても、児童虐待防止法では、DVを目撃させるなど著しい心理的外傷を与えることも、虐待であるとされています。

DVは喧嘩ではなく人権侵害です。「どんな場合でも暴力は許さない」という意識が大切です。

少しでも疑問に感じていることがあれば、以下のチェックシートで一度確認してみましょう。チェックの数が多い場合でも、すべてがDVに結びつくとは限りませんが、対等にお互いを尊重しあっている関係かどうかチェックシートを通じて考えてみませんか。

DV防止法の一部が改正されました

「生活の本拠を共にする交際相手からの暴力及びその被害者」についても、配偶者からの暴力及びその被害者に準じて、法の適用対象となりました。（平成26年1月3日施行）

DVは様々なケースがあり、その一部をご紹介します。

- 身体的暴力（殴る、ける、髪をひっぱる、物を投げつけるなど）
- 精神的暴力（大声でどなる、侮辱する、無視するなど）
- 経済的暴力（生活費を渡さない、お金を巻き上げるなど）
- 社会的暴力（行動を制限する、相手を管理・監視するなど）
- 性的暴力（避妊に協力しない、性的な行為を強要するなど）

《DVチェックシート》

◎夫（パートナー）や恋人は…

- 嫉妬深く独占欲が強いですか
- あなたが夫家に帰ったり、友人と会うことを嫌がりませんか
- あなたがほかの異性と浮気をしているのではないかと疑いますか
- あなたがどこで何をしているかを気にし、どこに行っただかをいちいち報告させますか
- 暴力をお酒や、ストレスのせいにしますか
- あなたを「もの」や所有物のように考えていますか
- 自分の好みに合わせてあなたが態度や考え方を变えることを望んでいますか
- あなたの持ち物を壊したり、ペットをいじめたりしますか
- あなたあての手紙を勝手に開封したり、携帯をチェックしたことがありますか

◎あなたは…

- いつも受身で、絶望感におそわれることがありますか
- 相手の機嫌を損ねることを恐れ、意見が食い違う事が怖いですか
- 相手が怒るのは自分に非があるからだと思っていますか
- 自分さえ我慢していれば二人の関係はうまくいくと思っていますか
- 相手が束縛したがるのは、自分のことを愛しているからだと思っていますか

DVは、誰かに相談してみることで、解決方法が見つかることもあります。勇気のいることですが、自分や子どものことを第一に考え、専門の相談機関に相談してみましょう。秘密は守られますので、安心してご相談ください。一緒に考えていきましょう。

相談・情報提供先のご案内

機関名	電話番号	相談時間等
小金井市企画財政部企画政策課男女共同参画室	042-387-9853	午前8時30分～午後5時まで（土・日・祝日・年末年始を除く）
配偶者暴力相談支援センター	東京ウイメンズプラザ	03-5467-2455 午前9時～午後9時（年末年始を除く） ※男性のための悩み相談もあります。
	東京都女性相談センター	03-5261-3110 午前9時～午後8時（土・日・祝日・年末年始を除く）
	東京都女性相談センター多摩支所	042-522-4232 午前9時～午後4時（土・日・祝日・年末年始を除く）
警視庁総合相談センター（相談ホットライン）	#9110（プッシュ回線、PHS、携帯電話から） 又は03-3501-0110	午前8時30分～午後5時15分（土・日・祝日・年末年始を除く）
小金井警察署生活安全課	042-381-0110	—

【夜間・緊急時】

機関名	電話番号
警察署（事件発生時）	110番
東京都女性相談センター	03-5261-3911

編集後記

話を聞いていくうちに面白い話にぶつかることが時々あり、今回はそのような場面に出くわしました。いつか取り上げてみたい事例であり、私たちには、まだ知らないことがいっぱいあると思いました。

（佐藤百香子）

文化を楽しむ。経済的ゆとりと、心のゆとりが無ければなかなかままなりません。映画・音楽・古典芸能等々、人類が築いてきた文化を謳歌するには平和な日常が欠かせませんね。

（加藤由喜枝）

今回の「こがねいパレット」は、男女共同参画社会における、子育てとその役割を探るテーマとし、参加者に大きな知恵と勇気を与えた素晴らしいものでした。

（吉田孝）

結城座さんのお正月公演を拝見させていただきました。新年早々に古典芸能に触れて、心が洗われた気がします。今年が良いことがありそうです。

（高島佐保子）

様々なステージで活躍されている女性・男性を取材し、改めて小金井の魅力を再発見しました。今後も男女共同参画社会の大切さをお伝えします。

（男女共同参画室）

「かたらい」は、公募による市民編集委員が、企画・取材・執筆を行っています。